

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立あこや学園			
○保護者評価実施期間	令和6年11月28日	～	令和6年12月11日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46人	(回答者数)	35人
○従業者評価実施期間	令和6年11月22日	～	令和6年12月5日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数)	22人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族支援の充実	各種懇談、さまざまな研修を実施している。また、親の会の活動を支援し、保護者の交流機会を作っている。 療育参加やペアレントトレーニング、連絡帳のやり取り等を通して、子育てを支援している。 家族参加行事を実施し、運動会ではきょうだいが出場する競技も実施している。	より保護者が懇談や行事に参加しやすいよう、懇談時のきょうだい託児を検討する。 きょうだいがつながりを持てるような取組を実施する。
2	視覚支援の充実	写真や絵カードを使用したスケジュールや手順の提示、自分の靴箱や棚がわかるよう顔写真の添付、会話時マカトンサインを併用する等、視覚的にわかり易い工夫をしている。 また、見通しを持ちやすい様、個別のカードを作り使用している。	視覚支援の取組を双方向のやり取りに使っていくために、職員が視覚支援について学ぶ機会を設ける。
3	地域との交流	市内6か所の保育所(園)との交流を行っている。中学生のトライやるウィーク、高校生の見学研修を受け入れている。 地域への公開療育「オープンあこや」を実施し、見学交流の機会を作っている。	通園時間内に園庭開放を実施し、地域の方と交流する機会を作る。 地域のイベントに参加したり、園の行事に招待する機会を作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者との様々な連絡(出欠、相談、お便りの配布等)が、電話や紙でのやり取りになっている。 送迎バスの運行の遅れが、タイムリーに保護者に伝えることができていない。	インターネット環境の整備、システム導入の遅れがある。	システム導入に向け、他施設の状況を含め調査し、準備していく。
2	クールダウンや静養に、十分な環境が整っていない。	部屋はあるが、整理が不十分で有効活用しきれしていない。	部屋の整理や間仕切りの使用で、クールダウンや静養に使えるようにする。
3	人員配置の最低基準は満たしているが、事業所の職員定数に欠員がある。	入職者の定着促進、採用募集の仕方等に工夫が必要である。	保育補助など、職種を限定せずに募集していく事を検討する。